

ヴィッキーの にっぽん紀行

Vol.4

Victoria・Potter

・1980年生まれ。英国ノーリッチ出身。
2008年8月から町英語指導助手。



1月から2月にかけて、日本の雪を楽しみました。それは私にとっては新鮮なものです。イギリスではほとんど雪は降りません。今年のような少ない雪でもイギリスでは様々な停止が考えられます。降ったときには、

除雪や電車の運行さらには国の機能を保つシステムがないのが問題です。友人や家族はみんなイギリスがどんなにか寒いかを私に話してくれます。そこで私は彼らに少なくとも家は孤立してしまふよと言っています。

二月の初めに福島県の他の42人のALIT（英語指導助手）と札幌雪祭りに行ってきました。札幌は只見より少し寒く、同じ位雪がある事に驚きました。でも、雪像はたいへんすばしかったです。それらの規模とそれらを作る技術に感銘を覚えました。驚とフクロウの写真は私のお気に入りです。週末は只見雪祭りに館岩、南郷、田島、下郷のALITが参加しました。私たちみんな雪祭りを楽しみました。初めて熊汁も食べました。下帯だけの男性達を見たときには、同情して思わず身震いをしてしまいました。今年の只見の冬は穏やかかもしれません、暖かい服と大きなコートを着ずには外に出たいとは思いません。

1月の終わりに東京に相撲千秋楽を見に行きました。その雰囲気は目を見張るもので白鳳と朝青龍の最終戦にはたいへん気合いが入りました。でも、その試合の決着があまりにも速い事に驚きました。何しろ相撲は試合前の数時間は気持ちの高め準備して闘われると思っていたのに、ほんの数秒で決着がつかってしまったのですから。

週末ほとんどスノーボードを続けて楽しんでいきます。たいへん楽しいのですが、女の子は男の子ほど早くは覚えられません。男の子達は、初めてにもかかわらず斜面を元氣よく恐れずに滑っています。でも、スノーボードをするたびに女の子は命や体を犠牲にしたくはありません。ですから、からかいや侮辱に傷つかなければならないのです。でも、いつかきつと、なんと言われようと、彼らよりうまくなります。

